

## 論文

# 初年次学生における地域志向教育 の効果について

Effect of community-oriented education of first-year students

木村 亮介<sup>1\*</sup>, 富永 哲雄<sup>2\*</sup>

<sup>1</sup>教養・協働教育部門・キャリアセンター, <sup>2</sup>COC+推進室, \* 共同筆頭著者

本稿は、和歌山大学にて平成28年度より新規開講となった「わかやま未来学副専攻」の導入科目である「地域協働セミナー（1年後期開講）」の受講生を対象に地域志向教育としての教育効果、COC+事業の目的である和歌山県への定着の可能性について分析を行った。その結果、和歌山県への興味、関心を促す地域志向教育としての教育効果は得られていることが分かった。また就職地としての和歌山県を選択する学生がいる一方で、多くの課題を有していることが明らかとなった。

キーワード：初年次学生、就職地、わかやま未来学副専攻、地域志向教育

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景

大学の新たな役割として、社会貢献が求められるようになって久しい。それは、2006年の教育基本法第7条改正と、2007年の学校教育法第83条改正以来、政策的な誘導もあって、各地で大学による社会貢献が進められてきた。そして、大学の研究成果の還元としてアウトリーチ活動などが積極的になされてきたが、一方で地域課題の多様化や複雑化の影響もあり課題解決までには応えられていない現状もある。また地域連携についても「組織間」というよりは、未だ教員などの「個人間」に留まっている場合も多い。

こうした背景から、国立大学改革実行プラン（文部科学省、2012）の中で「地域再生の核となる大学づくりCOC（Center of Community）構想の推進」が示され、地域課題の解決に向けた地域と大学の連携が強化されることになった。さらに2015年からは、地域と大学の連携を発展する施策として、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的にした「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成する教育カリキュラムの改革」を進める、いわゆる「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（文部科学省2015）が公募され、全国で42大学（参画する大学は256校）の事業が採用さ

れた。この事業の目的は、「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成する教育カリキュラムの改革」を進める地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積である。大学では、このCOC+事業を通じ、「地方創生」に貢献していく必要がある。和歌山大学においてもCOC+事業に採択され、わかやまに即した実践的な教育プログラム「わかやま未来学副専攻」を展開している。

本稿は、「わかやま未来学副専攻」において初年次教育として位置づけている「地域協働セミナー」の受講生を対象に地域活動への参加の程度、授業を受講した上での和歌山県への興味、関心などを通じ、地域志向教育の教育効果、COC+事業の目的である和歌山県への定着の可能性について分析を行った。

## 2. 研究概要

### 2.1 研究の目的

和歌山大学（以下本学）では、平成27年度にCOC+事業に採択され、わかやまに即した実践的な教育プログラム「わかやま未来学副専攻」を展開している。この「わかやま未来学副専攻」の教育プログラムは、原則3年間のカリキュラムとなっており、初年次が教養科目を中心に和歌山について学ぶ座学（地域協働セミナー、「わかやま」学群）、2年次が座学と地域を往復

しながら学び（地域協働自主演習Ⅰ、地域創業論、地域協働自主演習Ⅱ）、3年次が前期・後期を通じて地域に赴く実践型インターンシップ（地域協働自主演習 adv.）を行う（図1）。

本稿は、地域志向教育の教育効果を目的としているため、「わかやま未来学副専攻」の初年次教育として位置づけている「地域協働セミナー」の授業を履修した学生を対象に、アンケート調査を実施した。

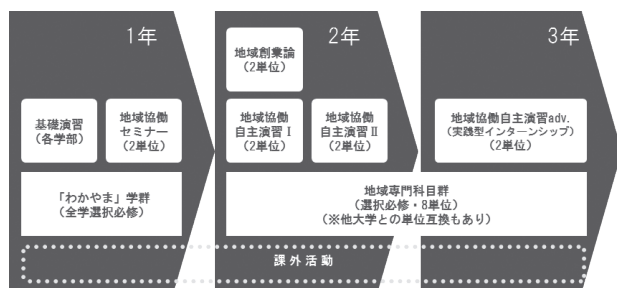


図1 わかやま未来学副専攻のカリキュラム

## 2.2 研究の方法

アンケートの実施は、「地域協働セミナー」の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収したが、回答自体は学生の任意とした。尚、教育活動の効果を把握するため、当該授業の中間振り返り（第7回）と授業の最終回の2回実施した。事前アンケートの実施時期は2016年12月6日、事後アンケートの実施時期は2017年1月31日であった。

アンケート内容は主に5つから構成されている。性別や学部・学年の（1）属性情報、（2）入学前後の居住地、（3）地域活動への参加の程度、授業を受けた上での（4）和歌山県への興味、関心、および（5）入学時の希望就職地、を調査した。

事前アンケート回答者数は242名、履修者（270名）に対する回答率は89.6%であった。また事後アンケート回答者数は213名、履修者（270名）に対する回答率は78.8%であった。

本稿は、初年次学生の授業を受講した上での教育効果、和歌山県への定着の可能性を把握することが目的であるため、事前、事後アンケート双方のアンケートに回答している初年次学生179名を対象とした（履修者270名に対する回答率は66.2%）。これは全4学部の1年次在籍者938名のうち19.1%に相当した。ただし、学部ごとの回答者数にはばらつきがあり、システ

ム工学部と観光学部が多く、経済学部、教育学部が少なかった（表1）。

表1 学部別の回答者数

学部	回答者数	1年次在籍者	1年次在籍者に占める回答者の割合
教育学部	9	177	5.1%
経済学部	37	319	11.6%
システム工学部	86	315	27.3%
観光学部	47	127	37.0%
総計	179	938	19.1%

## 3. アンケート調査の結果

### 3.1 入学前後の居住地

初年次学生の入学前の居住地を表2に示す。回答者の最も多い居住地は大阪府で83名（46.4%）、次が和歌山県で50名（27.9%）であり、近畿地方だけで451名（86.0%）を占めていた。地方別にみると次点は東海地方であるが、10名（5.3%）と近畿地方と大きく開きがある。また北海道地方からの回答者は存在していない（表2）。

表2 入学前後の居住地

地方	都道府県	回答者数	割合	地方別の割合	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
関東	神奈川県	1	0.6%	0.6%			1		1
北陸	石川県	1	0.6%	0.6%				1	1
東海	静岡県	2	1.1%	5.6%			1	1	2
	愛知県	3	1.7%				2	1	3
	三重県	5	2.8%		1	1	2	1	5
近畿	滋賀県	3	1.7%	86.0%			1	2	3
	京都府	1	0.6%				1		1
	大阪府	83	46.4%		3	14	46	20	83
	兵庫県	9	5.0%			5	3	1	9
	奈良県	8	4.5%			1	4	3	8
	和歌山県	50	27.9%		5	15	19	11	50
中国	鳥取県	3	1.7%	3.9%			1	2	3
	岡山県	1	0.6%					1	1
	広島県	2	1.1%					2	2
	山口県	1	0.6%					1	1
四国	香川県	1	0.6%	1.1%			1		1
	愛媛県	1	0.6%					1	1
	高知県	1	0.6%				1		1
九州	福岡県	1	0.6%	0.6%			1		1
その他	未回答	2	1.1%	1.1%			2		2
合計		179	100.0%		9	37	86	47	179

### 3.2 入学前の居住地別にみた希望就職地

#### （1）入学前の居住地別にみた希望就職地（4月）

初年次学生の入学時点での希望就職地は、全体の傾向としては、「地元（入学前の居住市区町村に相当）」が23.5%（42名）、「和歌山県内志向」が12.3%（22名）、「和歌山県外志向（地元と和歌山県を除いた地域に相当）」が19.0%（34名）、「海外志向」が4.5%（8名）、「場所不問（就職地の希望がなく特に問わないことに相当）」が27.9%（50名）、「未定」が9.5%（17名）、「その他」が3.4%（6名）、であった（表3）。

就職地としての和歌山県を想定しているものは「和歌山県内志向」の22名に和歌山県出身者の「地元志向」の10名を合わせた32名(17.8%)であった。

表3 入学前の居住地別にみた希望就職地(4月)

地方	出身県	地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	総計
関東	神奈川県				1				1
北陸	石川県		1						1
東海	静岡県	1				1			2
	愛知県	1				1		1	3
	三重県	2	1	1			1		5
近畿	滋賀県			1		2			3
	京都府					1			1
	大阪府	22	4	18	3	24	9	3	83
	兵庫県	4		3		2			9
	奈良県			3		4	1		8
	和歌山県	10	16	3	3	15	1	2	50
中国	鳥取県			1			2		3
	岡山県			1					1
	広島県	1		1					2
	山口県						1		1
四国	香川県			1					1
	愛媛県						1		1
	高知県						1		1
九州	福岡県			1					1
その他	未回答	1			1				2
合計	合計	42	22	34	8	50	17	6	179
	割合	23.5%	12.3%	19.0%	4.5%	27.9%	9.5%	3.4%	100.0%

## (2) 入学前の居住地別にみた希望就職地(12月)

初年次学生の12月時点での希望就職地は,全体の傾向としては,「地元」が18.4%(33名),「和歌山県内志向」が12.3%(22名),「和歌山県外志向」が20.1%(36名),「海外志向」が3.4%(6名),「場所不問」が35.8%(64名),「未定」が6.7%(12名),「その他」が3.4%(6名),であった(表4)。

就職地としての和歌山県を想定しているものは「和歌山県内志向」の22名に和歌山県出身者の「地元志向」の9名を合わせた31名(17.3%)であった。

4月と比較すると,「和歌山県内志向」は変わらず,「地元志向」が42名(23.5%)から33名(18.4%)

に減少した。一方,「場所不問」が50名(27.9%)から64名(35.8%)に増加している。

## (3) 入学前の居住地別にみた希望就職地(2月)

初年次学生の2月時点での希望就職地は,全体の傾向としては,「地元」が21.2%(38名),「和歌山県内志向」が15.6%(28名),「和歌山県外志向」が19.0%(34名),「海外志向」が1.7%(3名),「場所不問」が33.0%(59名),「未定」が7.8%(14名),「その他」が1.1%(2名),であった(表5)。

就職地としての和歌山県を想定しているものは「和歌山県内志向」の22名に和歌山県出身者の「地元志向」の9名を合わせた31名(17.3%)であった。

4月,12月と比較すると,「地元志向」,「和歌山県内志向」に大きな変化はなかった。一方で「場所不問」が50名(27.9%)→64名(35.8%)→59名(33.0%)と約3割程度は就職地にこだわっていないことが分かった。

表5 入学前の居住地別にみた希望就職地(2月)

地方	出身県	地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	総計	総計
関東	神奈川県					1				1
北陸	石川県		1							1
東海	静岡県			1		1				2
	愛知県	1				2				3
	三重県	1	1	1		1	1			5
近畿	滋賀県			2		1				3
	京都府	1								1
	大阪府	24	3	19	3	28	5		1	83
	兵庫県	3		1		5				9
	奈良県			2		4	2			8
	和歌山県	4	22	3		16	4	1		50
中国	鳥取県		1	2						3
	岡山県	1								1
	広島県			1				1		2
	山口県	1								1
四国	香川県	1								1
	愛媛県			1						1
	高知県						1			1
九州	福岡県			1						1
その他	未回答	1					1			2
合計	総計	38	28	34	3	59	14	2	1	179
		21.2%	15.6%	19.0%	1.7%	33.0%	7.8%	1.1%	0.6%	100.0%

表4 入学前の居住地別にみた希望就職地(12月)

地方	出身県	地元志向	和歌山県内志向	和歌山県外志向	海外志向	場所不問	未定	その他	総計
関東	神奈川県				1				1
北陸	石川県		1						1
東海	静岡県	1				1			2
	愛知県	1				1		1	3
	三重県		1	1		2	1		5
近畿	滋賀県			1		2			3
	京都府					1			1
	大阪府	17	3	24	2	29	7	1	83
	兵庫県	3		1		5			9
	奈良県			3		4	1		8
	和歌山県	9	15	3	1	18	1	3	50
中国	鳥取県		1		1		1		3
	岡山県			1					1
	広島県	1						1	2
	山口県		1						1
四国	香川県			1					1
	愛媛県						1		1
	高知県					1			1
九州	福岡県			1					1
その他	未回答	1			1				2
合計	総計	33	22	36	6	64	12	6	179
		18.4%	12.3%	20.1%	3.4%	35.8%	6.7%	3.4%	100.0%

## 3.4 地域活動への関心,参加の有無

### (1) 地域活動への関心,参加の程度(12月)

初年次学生の12月時点での地域活動への関心,参加の程度は,「参加」が26.3%(127名),「参加／関心なし」が1.7%(3名),「不参加／関心あり」が52.0%(93名),「不参加／関心なし」が15.1%(27名),「知らない」が5%(9名),であった。

学部別に見るとシステム工学部,経済学部は「参加」の経験のある学生が少ない。一方で,「不参加／関心あり」が60.5%～62.2%存在しており,地域活動に関心を持っている。観光学部は初年次学生ながら



66.0% が、何らかの地域活動に参加しており、「不参加／関心あり」を含めると 95.8% に上る（表 6）。

## (2) 地域活動への関心,参加の程度（2月）

初年次学生の2月時点での地域活動への関心,参加の程度は、「参加」が 29.6%（53 名）,「参加／関心なし」が 0%（0 名）,「不参加／関心あり」が 46.9%（844 名）,「不参加／関心なし」が 15.1%（27 名）,「知らない」が 8.4%（15 名）であった。

12月の回答と比較するとシステム工学部,観光学部,経済学部において「参加／関心なし」,「不参加／関心なし」から「参加」に変化しており,合計は 26.3%（47 名）から 29.6%（53 名）となっている。「不参加／関心なし」は 12月,2月ともに 15.1%（27 名）であり,地域活動に関心がないものが一定数いることが確認された（表 7）。

## 3.5 和歌山県への興味,関心

### (1) 和歌山県への興味,関心の程度（4月）

初年次学生の入学時での和歌山県への興味,関心の程度は,「大いに興味がある」が 8.4%（15 名）,「関心がある」が 25.7%（44 名）,「どちらともいえない」が 24.6%（38 名）,「あまり関心がない」が 21.2%（38 名）,「まったく関心がない」が 20.1%（36 名）,であった。どの学部においても「大いに興味がある」が最も少なく「関心がある」を加えても 34.1%となった。

学部別に見ると,観光学部,教育学部は「大いに興味がある」,「関心がある」が多く 48.9%～55.5%となっている。一方でシステム工学部は「あまり関心がない」,「まったく関心がない」を合わせると 52.3%存在しており,半数以上が関心を持っていない（表 8）。

### (2) 和歌山県への興味,関心の程度（12月）

初年次学生の12月時点での和歌山県への興味,関心の程度は,「大いに興味がある」が 16.2%（29 名）,「関心がある」が 43.6%（78 名）,「どちらともいえない」が 29.6%（53 名）,「あまり関心がない」が 7.3%（6 名）,「まったく関心がない」が 3.4%（6 名）,であった。

4月の回答と比較すると「大いに興味がある」が 8.4%から 16.2%に急増しており,「関心がある」を加えると 34.1%から 59.8%と約 1.7 倍となっている。

学部別に見ると,4月時点ではシステム工学部は「あ

表 6 地域活動への関心,参加の程度（12月）

	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
参加	4 44.4%	7 18.9%	5 5.8%	31 66.0%	47 26.3%
参加／関心なし	0.0%	0.0%	2 2.3%	1 2.1%	3 1.7%
不参加／関心あり	4 44.4%	23 62.2%	52 60.5%	14 29.8%	93 52.0%
不参加／関心なし	1 11.1%	5 13.5%	21 24.4%	0.0%	27 15.1%
知らない	0.0%	2 5.4%	6 7.0%	1 2.1%	9 5.0%
総計	9 100.0%	37 100.0%	86 100.0%	47 100.0%	179 100.0%

表 7 地域活動への関心,参加の程度（2月）

	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
参加	4 44.4%	8 21.6%	7 8.1%	34 72.3%	53 29.6%
参加／関心なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
不参加／関心あり	4 44.4%	23 62.2%	45 52.3%	12 25.5%	84 46.9%
不参加／関心なし	1 11.1%	4 10.8%	21 24.4%	1 2.1%	27 15.1%
知らない	0.0%	2 5.4%	13 15.1%	0.0%	15 8.4%
総計	9 100.0%	37 100.0%	86 100.0%	47 100.0%	179 100.0%

表 8 和歌山県への興味,関心の程度（4月）

	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
大いに興味がある	2 22.2%	5 13.5%	3 3.5%	5 10.6%	15 8.4%
関心がある	3 33.3%	8 21.6%	17 19.8%	18 38.3%	46 25.7%
どちらともいえない	1 11.1%	14 37.8%	21 24.4%	8 17.0%	44 24.6%
あまり関心がない	2 22.2%	3 8.1%	24 27.9%	9 19.1%	38 21.2%
まったく関心がない	1 11.1%	7 18.9%	21 24.4%	7 14.9%	36 20.1%
総計	9 100.0%	37 100.0%	86 100.0%	47 100.0%	179 100.0%

まり関心がない」,「まったく関心がない」が 52.3%であったが,12月になると「大いに興味がある」が 7.0%,「関心がある」が 47.7%に急増している。また観光学部,教育学部,経済学部においても授業が経過するとともに関心の程度が増加している（表 9）。

表 9 和歌山県への興味,関心の程度 (12月)

	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
大いに興味がある	5 55.6%	9 24.3%	6 7.0%	9 19.1%	29 16.2%
関心がある	1 11.1%	15 40.5%	41 47.7%	21 44.7%	78 43.6%
どちらともいえない	28 32.6%	12 25.5%	3 3.3%	10 27.0%	53 29.6%
あまり関心がない	0 0.0%	2 5.4%	7 8.1%	4 8.5%	13 7.3%
まったく関心がない	0 0.0%	1 2.7%	4 4.7%	1 2.1%	6 3.4%
総計	9 100.0%	37 100.0%	86 100.0%	47 100.0%	179 100.0%

### (3) 和歌山県への興味,関心の程度 (2月)

初年次学生の2月時点での和歌山県への興味,関心の程度は,「大いに興味がある」が19.0% (34名),「関心がある」が46.9% (84名),「どちらともいえない」が24.0% (43名),「あまり関心がない」が7.3% (13名),「まったく関心がない」が2.8% (5名),であった。

12月の回答と比較すると,「あまり関心がない」,「まったく関心がない」の変化はなく「どちらともいえない」から「大いに興味がある」,「関心がある」へと移っている。

4月時点の回答と比較すると,「どちらともいえない」にはそれほど変化がないが (24.6%→24.0%),「大いに興味がある」が8.4%から19.0%,「関心がある」が25.7%から46.9%に増加している。一方で「あまり関心がない」,「まったく関心がない」は4月の41.3%から10.1%と減少しているが12月の10.7%と変化がないため,約1割は授業が経過しても興味,関心が持てないでいる。

学部別に見ると,すべての学部において関心がある傾向である。12月と比較するとシステム工学部が「大いに興味がある」が7.0%から12.8%になっている一方で経済学部が微減している。4月と比較するとすべての学部において関心がない学生は少なくなっている。特にシステム工学部は「あまり関心がない」,「まったく関心がない」が52.2%であったのに対し,2月時点では10.5%減少している。そのため「大いに興味がない」が3.5%から12.8%,「関心がある」が19.8%から46.5%に増加しており,本講義により和歌山県への関心が高まっているといえる (表10)。

表 10 和歌山県への興味,関心の程度 (2月)

	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	総計
大いに興味がある	4 44.4%	8 21.6%	11 12.8%	11 23.4%	34 19.0%
関心がある	3 33.3%	19 51.4%	40 46.5%	22 46.8%	84 46.9%
どちらともいえない	1 11.1%	9 24.3%	26 30.2%	7 14.9%	43 24.0%
あまり関心がない	1 11.1%	1 2.7%	5 5.8%	6 12.8%	13 7.3%
まったく関心がない	0 0.0%	0 0.0%	4 4.7%	1 2.1%	5 2.8%
総計	9 100.0%	37 100.0%	86 100.0%	47 100.0%	179 100.0%

## 4. 分析結果

本稿は,わかやま未来学副専攻プログラムにおいて初年次教育として位置づけている「地域協働セミナー」の受講生を対象に地域活動への参加の程度,授業を受講した上での和歌山県への興味,関心などを通し,地域志向教育の教育効果,COC+事業の目的である和歌山県への定着について分析を行った。

### 4.1 地域志向教育の教育効果

地域志向教育の教育効果について,アンケート調査の結果から,以下の2点に要約することができる。

ひとつめとして,和歌山県への興味,関心は「大いに興味がある」と「関心がある」を合わせると入学時34.1% (61名)であったのに対し,12月時点では59.8% (107名),さらに2月時点では65.9% (118名)と授業が経過する度に増加している。そのため和歌山県を地域とする地域志向教育として効果があると言える。

ふたつめとして,地域活動への関心,参加は12月時点で「参加」が26.3% (47名)であったのに対し2月時点では29.6% (53名)と和歌山県への興味,関心同様,授業が経過する度に増加している。

本学が展開している「わかやま未来学副専攻」では地域志向教育 (地域協働セミナー) で和歌山県への興味,関心,地域活動への参加を熟成し,2年次対象の地域協働自主演習I・II,さらに3年次対象の実践型インターンシップ (地域協働自主演習adv.) へ展開していく計画である。そのため初年次学生に向けた地域志向教育としての教育効果はあったといえる。

一方で,地域活動への関心,参加への問いに対し,「不参加/興味なし」が15.1% (27名)と地域活

動への関心がないものみられた。地域活動を通して、地域課題の知識・原因や社会的背景など課題の認知は主専攻の教育と密接に関わってくる。今後は地域活動に興味・関心がない学生に対してどのように伝達、教育していくか、検討する必要がある。

#### 4.2 和歌山県への定着の可能性

和歌山県への定着の可能性として、アンケート調査の結果から、以下の3点に要約することができる。

ひとつめとして、就職地としての和歌山県を志向しているものは入学時 17.8% (32 名) であったのに対し、12 月時点では 17.3% (31 名) さらに 2 月時点では 17.3% (31 名) と授業が経過してもほとんど変化は見られず、地域志向科目によって就職地として和歌山県を志向する学生に変化はなかった。

ふたつめとして、初年次学生のため希望就職地をそれほど明確に絞っておらず、希望就職地を「未定」が多いと考えていた。しかしながら、入学時 9.5% (17 名) であったのに対し、12 月時点では 6.7% (12 名) さらに 2 月時点では 7.8% (14 名) と少なかった。一方で、最も多い回答が「場所不問」であった。入学時 27.9% (50 名) であったのに対し、12 月時点では 35.8% (64 名)、さらに 2 月時点では 33.0% (59 名) である。

最後に就職地に関しては、初年次はまだ自身の進路自体あまり考えられていないこともあり、地域の愛着や大まかなイメージだけで考えていると思われる。

初年次のうちに、就職地として和歌山県を志向する人が増えることは考えにくい、和歌山県を志向の人数が減らずに、「場所不問」が増えたということは、「都市部」や「地元」にこだわらずに和歌山も含めて「どこでもいい」という人が増えていると捉えることもできる。その中には、地域志向教育の影響で、和歌山県も就職地として視野に入れる学生も含まれている可能性がある。

#### 5. おわりに

アンケート調査の結果から、和歌山県への興味、関心、また就職地として和歌山県を選択する学生が一定数存在していることが確認された。本学が実施している「わかやま未来学副専攻」はわかやまへの興味、関心を高め、わかやまでフィールドワークを実施し、就職地としてのわかやまを将来の選択肢の 1 つとして考える教育プログラムである。わかやまへの興味、関心が高く地域

活動に参加したい学生にとっては魅力的な教育プログラムの構成となっている。

初年次の時点では、まずは和歌山県に「関心がある」学生を増やし、その後の地域志向教育につなげ、進路選択の時期までに就職地として和歌山県を志向する学生を増やすよう努めるべきだと考えられる。初年次の地域志向教育によって「関心がある」学生を増やすことについては一定の成果が見られた。今後の課題は、初年次教育においてその割合をより増やしていくことと、2 年次以降の教育によって、関心をより高め、就職地としても和歌山県を志向する学生を増やしていくことである。そのため、「わかやま未来学副専攻」において、2 年次以降の効果検証と改善を行っていくとともに、受講生自体を増やしていくことも課題である。また一方で、「わかやま未来学副専攻」の受講生に限られる現状では、副専攻受講生以外が受ける教育全体の中で、地域志向の要素を盛り込んでいくことも課題である。今後はこれらの課題解決に努め、わかやまの未来を切り拓く若者を育みたい。

#### 謝辞

本研究では調査において、和歌山大学学務課、同 COC + 推進室からの協力をいただきました。

#### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省, 2012, 国立大学改革実行プラン, 文部科学省ホームページ,  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1341970.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm)
- 2) 文部科学省 (2015) 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+), 文部科学省ホームページ,  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/coc/](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/)

参考資料 1 「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー第1回】

「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー 第1回】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"1個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問1】あなたの学部は	① 経済 ② 教育 ③ シス工 ④ 観光 ⑤ その他
【質問2】あなたの学年は	① 1年 ② 2年 ③ 3年 ④ 4年以上 ⑤ その他
【質問3】あなたの性別は	① 男性 ② 女性

【質問4】大学入学以前に住んでいた地元（市町村）はどこですか？

（①を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① （ ）都・道・府・県 （ ）市(区)・町・村	② 海外などその他
--------------------------	-----------

【質問5】大学入学後に住んでいる市町村はどこですか？（②を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① 地元（実家等がある市町村からの通学）
② 大学入学前と異なる：（ ）都・道・府・県 （ ）市(区)・町・村

【質問6】あなたは大学生活の中で、地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

① すでに参加している	② 関心はあるが、参加まではしていない	③ 関心がないので参加していない
④ 関心がないが、やむなく参加している	⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない	

【質問7】入学時に和歌山県について関心がありましたか。

① 大いに関心があった	② 関心があった	③ どちらともいえない
④ あまり関心がなかった	⑤ まったく関心がなかった	

【質問8】現在、和歌山県について関心がありますか。

① 大いに関心がある	② 関心がある	③ どちらともいえない
④ あまり関心がない	⑤ まったく関心がない	

【質問9】入学時に「就職地」の希望は持っていましたか？

① 【質問4】で回答した市町村(地元)で就職したい	② 海外で住み、就職したい
③ 和歌山県内で就職したい	④ 場所は特に問わない
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）	⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない
	⑦ その他（ ）

【質問10】現在、「就職地」の希望はありますか？

① 【質問4】で回答した市町村(地元)で就職したい	② 海外で住み、就職したい
③ 和歌山県内で就職したい	④ 場所は特に問わない
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）	⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない
	⑦ その他（ ）

【質問11】和歌山県をフィールドに地域の課題を解決しながら自らも成長をする“わかやま未来学副専攻”を履修する予定ですか？

① 履修を予定している	② 履修を予定していない	③ わからない
-------------	--------------	---------

【学生番号】

--	--	--	--	--	--	--	--



## 参考資料2 「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー第2回（最終回実施）】

## 「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー 第2回（最終回実施）】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"1個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問1】あなたは大学生活の中で、地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

- ① すでに参加している ② 関心はあるが、参加まではしていない ③ 関心がないので参加していない  
④ 関心がないが、やむなく参加している ⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない

【質問2】和歌山県について関心がありますか。

- ① 大いに関心がある ② 関心がある ③ どちらともいえない  
④ あまり関心がない ⑤ まったく関心がない

【質問3】本講義を受講したことにより、和歌山県について関心が深まりましたか。

- ① 大いに関心が深まった ② 関心が深まった ③ どちらともいえない  
④ あまり関心が深まらなかった ⑤ まったく関心が深まらなかった

【質問4】あなたは、これからの和歌山の発展に貢献したいと思いますか？

- ① とてもそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない  
④ あまりそう思わない ⑤ まったく思わない

【質問5】「就職地」の希望はありますか？

- ① 大学入学以前に住んでいた市町村(地元)で就職したい ② 海外で住み、就職したい  
③ 和歌山県内で就職したい ④ 場所は特に問わない  
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く） ⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない  
⑦ その他（ ）

【質問6】“わかやま未来学副専攻”を履修する予定ですか？

- ① 履修を予定している ② 履修を予定していない ③ わからない

【質問7】以下のうち、どのテーマに最も関心がありますか？

- ① 6次産業化実践 ② 地域づくり戦略構想  
③ 地方都市のまちなか再生（和歌山市） ④ 家庭用品イノベーション  
⑤ 地域資源を生かした生業づくりとまちづくり（九度山町） ⑥ 自立・地域共生推進（南紀熊野）  
⑦ この中にはない

【質問8】本講義の満足度は？

- ① 大いに満足 ② 満足 ③ どちらともいえない  
④ あまり満足ではない ⑤ まったく満足ではない

【質問9】本講義の理解度は？

- ① 大いに理解できた ② 概ね理解できた ③ どちらともいえない  
④ あまり理解できなかった ⑤ まったく理解できなかった

【質問10】講義の中で特に印象に残った回を複数選択してください。（複数選択可）

- ① オリエンテーション ② 地方創生と和歌山県の課題  
③ まちなか公共空間を再生するー公民連携のまちづくり ④ まちなかで暮らしをつくるー空き家対策と活用に向けた新たな試み  
⑤ 中心市街地を再生するーリノベーションによるまちづくり ⑥ 農で地域をつなぐー秋津野ガルテンの挑戦  
⑦ 農の可能性を拓くー和歌山県の農林水産業と6次産業化 ⑧ わかやま暮らし「田舎暮らし応援わかやま」と地域医療  
⑨ 中間振り返り ⑩ 6次産業化をプロデュースするー地域食ブランディング  
⑪ 家庭用品をプロデュースするー産業の概略ー ⑫ 家庭用品をプロデュースするー家庭用品産業とその振興ー  
⑬ 学校と地域を考えるー中山間地の教育現場と若者の役割 ⑭ 和歌山で起業するー創業事例と支援の取組  
⑮ 全体の振り返り

【質問11】本講義、または「わかやま未来学副専攻」に対する改善点、提案、要望